

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	真田丸第2次上田合戦の舞台・小諸城と常在戦場を伝える事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人小諸フィルムコミッション 〒384-0808長野県小諸市御影新田1968番6 連絡先090-4460-5102
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業 (6)特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,315,872円 (うち支援金:977,000円)

事業内容

1.冊子「小諸城と常在戦場」の制作

NHK大河ドラマ「真田丸」の放映にあわせ小諸城がより魅力ある観光地であることをPR。関ヶ原の合戦最大の局地戦・徳川対真田が戦った第2次上田合戦とき徳川軍の本隊が小諸城に集結し真田討伐のため出陣した。結果は徳川軍の惨敗であった。その敗因をつくったのが後に小諸城主となる牧野家の当主・牧野忠成である。お家断絶の危機に追い込まれた牧野家、汚名をそそぐため家訓「常在戦場」の精神でこの危機を乗り越えた牧野忠成の物語を中心に展開。「常在戦場」の精神は第2次上田合戦時の小諸城が舞台であることを伝える。

2.シンポジウム「小諸城と常在戦場」を開催

牧野家の本家は長岡藩。現在も第17代当主・牧野忠昌氏が健在。シンポジウムは17代当主を講師に迎え、「常在戦場」の精神や小諸藩と長岡藩の関係など講演いただく。またNHK長野放送キャスターの萩原早紀子氏に講演いただく。萩原氏はイブニング信州「真田丸ゆかりの地」のキャスターで、その体験のなかから大河ドラマ「真田丸」の魅力を紹介。

3.草の根講演会「小諸城と常在戦場」を開催

小諸城が第2次上田合戦の舞台であったこと、「常在戦場」の言葉の発祥地であること等、地元でも知らない人も多い。そのため少人数での講演会を各所で開催し、地元の方に理解をいただく。

4.ホームページで「小諸城と常在戦場」を配信

より広く事業の活動を知っていただくため、本の紹介、シンポジウムや草の根講演会の様子、NHK本社へ小諸のことをアピールにいったこと等を掲載する。



事業効果

- ①懐古園に小諸城の歴史が加わり観光地の魅力が増加
島崎藤村の詩で有名な懐古園は第2次上田合戦時に徳川軍が本陣をおいた城であり、常在戦場の言葉の発祥地として紹介され魅力ある観光地であることが大きくアピールできた。
- ②市民が誇れる場所として認知された
ドラマで小諸城が舞台となった話が3週続き、紀行でも小諸城が紹介され、地元市民の誇りとして小諸城が認知された。
- ③歴史の城下町・小諸が認知された
小諸城を中心とした城下町のイメージをつくり、連動して様々な歴史と文化の場所が発見され観光資源の拡大に貢献。

今後の取り組み

- ・小諸市の観光の中心である小諸城址懐古園をさらにブラッシュアップする。魅力ある小諸城主をはじめ、関連した人物を取り上げ、本の出版、展示会や講演会等で紹介していく。
- ・江戸時代に描かれた石倉芳隣作の小諸城絵図面数百点を長野大学と協働して三次元CGで復元させている。それを元に観光や教育に役立たせる事業を展開する。
- ・小諸にゆかりある人物を丁寧に掘り起こし、映画やテレビ番組制作者等へ脚本素材として売り込む活動を展開する。

【目標・ねらい】

- ①小諸城の歴史や人物を調査し観光資源として役立てることを目標とする。
- ②知らない人に広く告知できるように本の出版、ホームページの制作、シンポジウム、展示会等を開催し、わかりやすく親しみやすく伝える。
- ③城下町・小諸のイメージをつくり、そこに文化・芸術の町であることを加え、より魅力ある観光地を宣伝する。

※自己評価【A】

大河ドラマと連動した事業となり小諸城の魅力が増加しました。脚本完成前にNHKへアピールにいき思っていた以上にドラマの中で小諸城が舞台となりました。シンポジウムでは150名の参加を予定していましたが、それを60名上回り210名達し関心の高さを実感。本の反響も大きく地元で説明会の開催の要望も多くなり、草の根講演会の活動につながりました。